

八坂龍神会 設立趣意書

日本には、世界に類を見ない精神文化があります。

それは、神と仏が争うことなく融合してきた「神仏習合」の信仰です。

古代より日本人は、山川草木、森羅万象すべてに神が宿ると感じ、自然と共に生きてきました。この自然崇拜が、神社という形を取り「神道」と呼ばれるようになり、六世紀に仏教が伝来すると、仏陀の教えと響き合いながら、日本独自の信仰形態が育まれました。

神道は、教えを持たず、体得を重んじます。本殿に祀られる鏡に映る自己と向き合い、心が生み出す「我（が）」を離れたとき、人は本来の神性に還るとされます。

仏教は、仏陀の教えをもとに、心の働きを見つめ、煩惱を超えて仮性に至る道を示します。

この二つが互いに学び合い、補い合うことで成立したのが「神仏習合」の信仰です。

八坂神社と延暦寺に象徴される祇園信仰は、疫病や社会不安の時代において、人々の祈りを集め、社会を鎮め、浄化と再生をもたらしてきました。そこには、宗派や立場を超えた「祈りの統合」がありました。

八坂龍神会は、この祇園信仰と神仏習合の精神を現代に甦らせ、宗教としてではなく、精神文化・芸術・祈り・対話を通した活動として、未来へと繋いでいくことを目的に設立されました。

龍神とは、水の象徴であり、循環・浄化・再生・統合の象徴です。

分断が進む現代において、龍神の水の信仰は、世界を再び結び直す鍵となります。

八坂龍神会は、特定の思想や信仰を強制するものではありません。それぞれの文化、それぞれの祈りを尊重しながら、人類共通の精神性に静かに光を当てていく場です。

日本の靈性と精神文化を、国内外へ発信し、
文化と文化、人と人、自然と人間を繋ぐ懸け橋となること。

それが、八坂龍神会の使命です。

八坂龍神会代表 小林正人